



2023年2月期第1四半期 決算説明資料

バリオセキュア株式会社
(証券コード：4494)

2022年7月11日

1. 2023年2月期 第1四半期決算概要	3
2. 2023年2月期 通期業績予想	13
3. 中長期の成長戦略	16
4. 会社概要	20
5. 参考資料	27

1. 2023年2月期第1四半期 決算概要

- 当第1四半期は前年比増収増益を達成。営業利益は前年比+7.9%。リカーリング収益であるマネージドセキュリティサービスは前年比+4.1%とコロナ禍においても順調に推移。

売上収益

670百万円
前年比：+3.4%

営業利益

199百万円
前年比：+7.9%

当期利益

126百万円
前年比：+7.0%

負債比率

41.7%
前年：41.3%

マネージドセキュリティサービス

567百万円 / VariOS
前年比：+4.1%



インテグレーションサービス

102百万円
前年比：▲0.4%



- 売上収益は、前年比+3.4%の670百万円、営業利益は、前年比+7.9%の199百万円、当期利益は、前年比+7.0%の126百万円。

単位：百万円以下切り下げ表記

(単位：百万円)	22年2月期1Q		23年2月期1Q			
	実績	売上収益比	実績	売上収益比	前年差	前年比
売上収益	647	100.0%	670	100.0%	22	3.4%
営業利益	184	28.5%	199	29.8%	14	7.9%
当期利益	118	18.2%	126	18.9%	8	7.0%
一株当たり純利益 (円)*1	31.37		33.29		1.91	
負債比率 (%)*2	52.6%		41.7%		▲10.8%	
自己資本比率 (%)*3	55.8%		60.9%		5.1%	

(単位：百万円)	22年2月期1Q		23年2月期1Q			
	実績	売上収益比	実績	売上収益比	前年差	前年比
マネージドセキュリティ	544	84.1%	567	84.7%	22	4.1%
インテグレーションサービス	102	15.9%	102	15.3%	▲0	▲0.4%

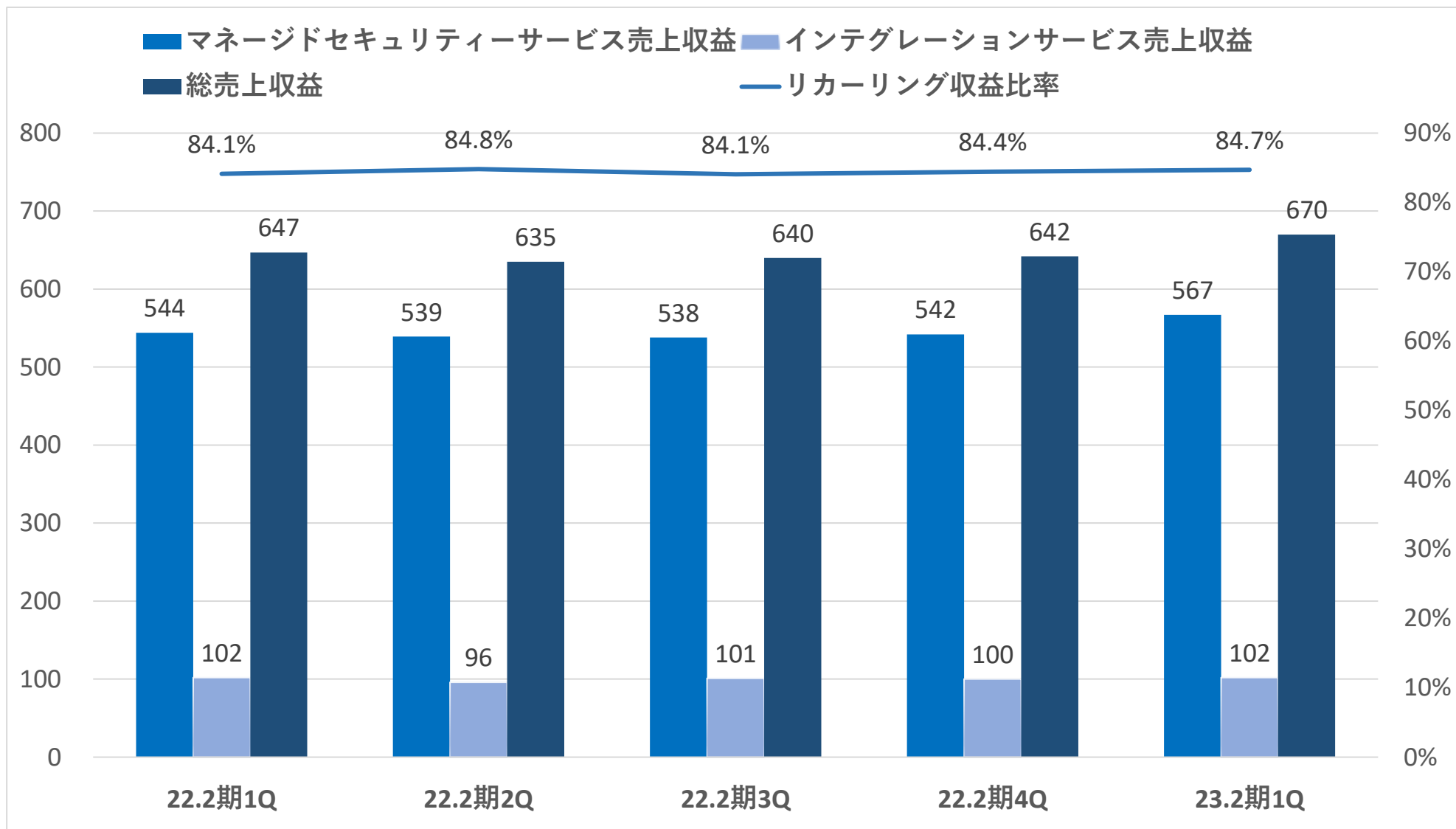
*1：一株当たり純利益（EPS）=通期利益÷発行済み株式数

*2：負債比率=(短期借入金+長期借入金)÷自己資本

*3：自己資本比率=自己資本÷総資本

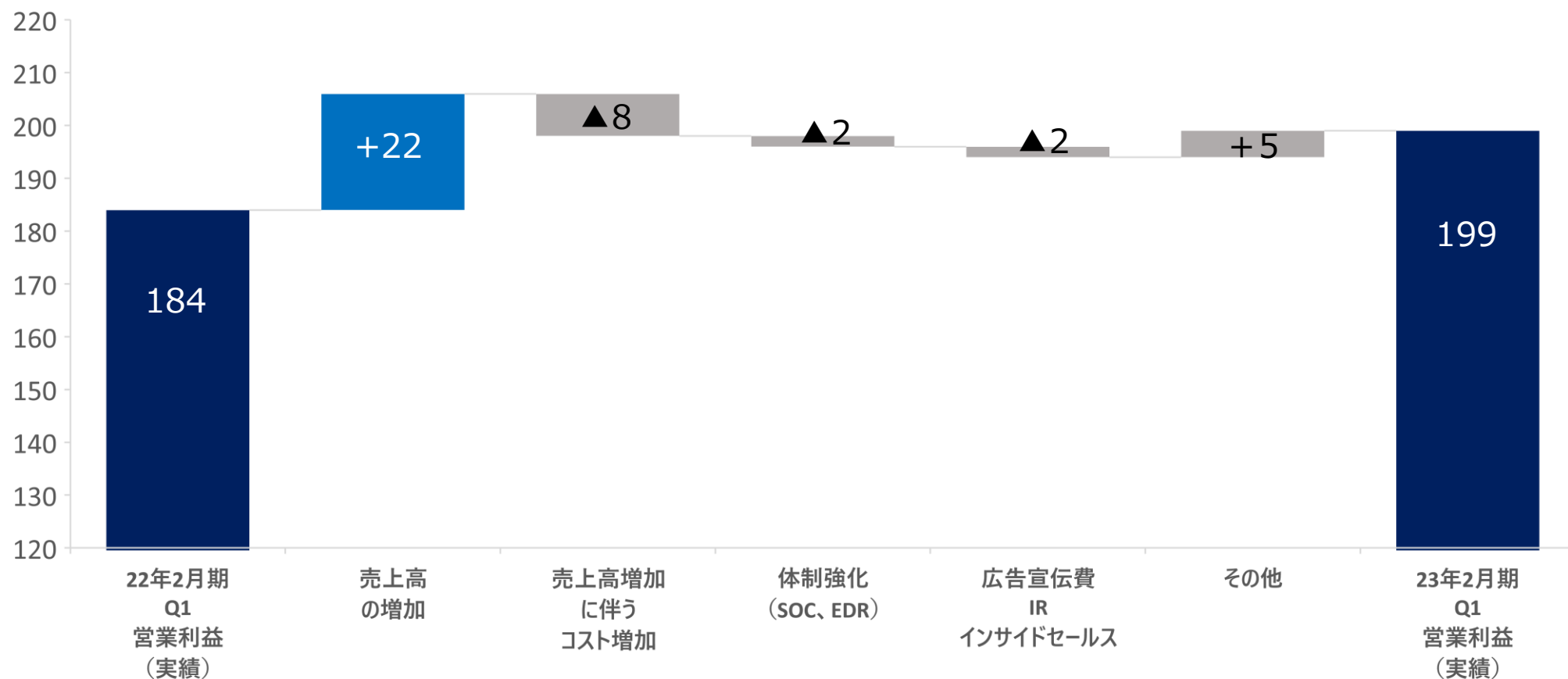
■ 85%程度の安定したリカーリング収益の割合を継続

単位：百万円



- 営業利益は、前年比+7.9%の199百万円、営業利益率29.8%。売上増加+22百万円に対し、材料費等のコスト増▲8百万円、セキュリティーオペレーションセンター（SOC）、隣接領域（EDR等）の体制強化▲2百万円、インサイドセールス、広告宣伝費等の販売費の増加▲2百万円。

(単位：百万円)



- 計画的な借入返済により、財政状態は改善傾向にあり、1Qは、期末配当金153百万円の影響あるも、継続的な収益の積上げを図り、資本比率は+0.2ptの60.9%。
- フリーキャッシュフローは、前年同期比11百万円増の28百万円。

(単位：百万円)	22年2月末	22年5月末	前期末差	コメント
資産合計	7,122	7,060	▲ 94	■ のれん純資産倍率*1 : 1.28x (2021/2末) 1.17x (2022/2末) 1.18x (2022/5末) 継続的な収益の積上げにより倍率は着実に低下
流動資産	1,249	1,189	▲ 70	
非流動資産	5,872	5,871	▲ 23	
のれん	5,054	5,054	0	■ 有利子負債 : 2,156百万円 (2021/2末) 1,786百万円 (2022/2末) 1,793百万円 (2022/5末) 計画的な借入返済により残高は着実に減少
負債合計	2,799	2,764	▲ 467	
流動負債	2,403	2,378	1,411	Net D/E レシオ*2 : 39.6 % (2021/2末) 32.3 % (2022/2末) 35.7% (2022/5末)
非流動負債	395	385	▲ 1,879	
資本合計	4,323	4,296	373	Net D/EBITDA倍率*3 : 1.8x (2021/2末) 1.6x (2022/2末) 1.6x *4 (2022/5末)
負債及び資本合計	7,122	7,060	▲ 94	
				■ 自己資本比率 : 54.7% (2021/2末) 60.7% (2022/2末) 60.9% (2022/5末) 継続的な収益の積上げにより、自己資本比率は増加

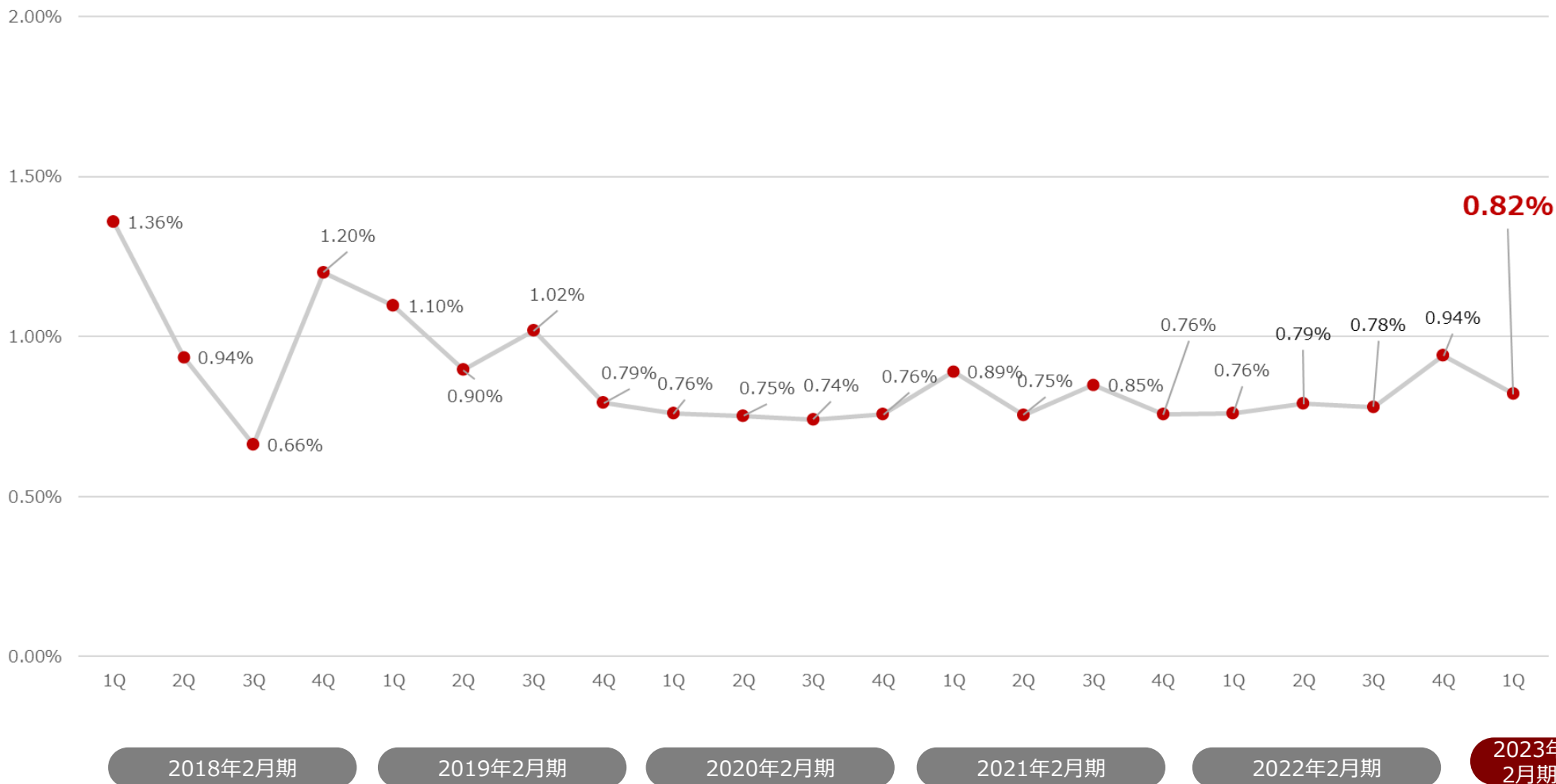
*1 : のれん純資産倍率 = のれん / 資本

*2 : Net D/E レシオ = Net Debt / 資本 Net D/E (純有利子負債: 有利子負債残高 (短期借入金、長期借入金) - 現金及び現金同等物 (預金)) IFRS(国際会計基準)

*3 : Net D/EBITDA倍率 = Net Debt / EBITDA (償却前営業利益: 金利や税、減価償却費を計上する前の利益)

*4 : Net D/EBITDA倍率 = Net Debt / EBITDAx4

- 統合型インターネットセキュリティ(マネージドセキュリティサービス)の解約（四半期）は、1%以下の低い水準で推移。



解約率（金額ベース） = 四半期解約金額 ÷ （各年度の期初ベース月次売上収益 × 3ヶ月）

マネージドセキュリティサービス

VSR nシリーズ機能強化への対応

継続した機能追加によるサービス向上

VSR nシリーズは、既存機能の強化を図り、お客様のニーズに対応したサービス力向上を目指している。

テレワークの普及に伴い増加する通信を分散させるため、特定のアプリケーションについては、通信経路を迂回させるローカルブレイクアウト機能への対象拡大をはじめ、URL FilteringのHTTPS対応などの機能強化を実現。

また、より一層の付加価値創造に向け、AI技術の積極的な活用や、昨今のサイバー攻撃動向、お客様のセキュリティ 이슈に沿ったサービス開発を強化。

1

付加価値をつける活動

HEROZ Kishin ベータリリース
製品化前のマーケティング調査を兼ねたテストローンチ。
サービスのベースを作る

2

お客様のセキュリティ 이슈を統合的に管理するサービスブランドへの進化。

3

近未来のテクノロジーを活用し、危機予測と対策に必要なソリューションをご提供。

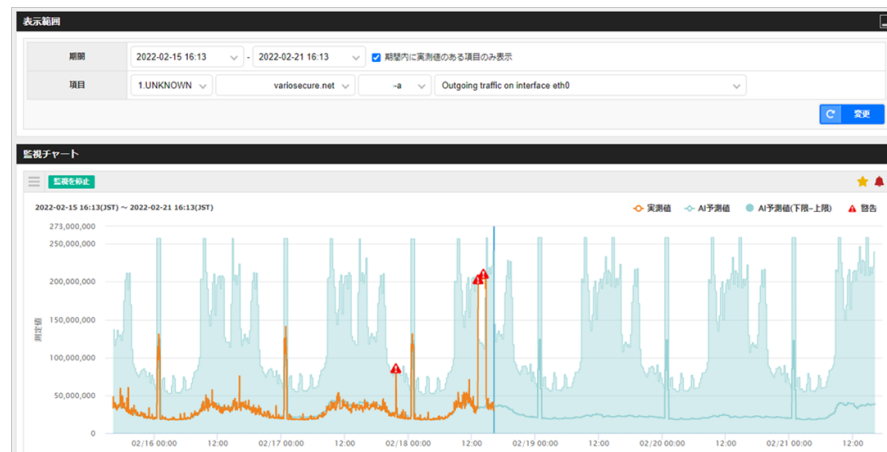
VarioS



VSR nシリーズのAIトラフィック予測をベータ提供開始

HEROZ社との共同開発によるAI機能の実装

VSR nシリーズでは、HEROZ社より提供を受けた「HEROZ Kishin」を活用したAI分析によるトラフィック予測とVSRのリソース監視を追加し、クローズドベータとして提供を開始。本機能は、VSR nシリーズをご導入の全てお客様へ期間限定で無償提供。



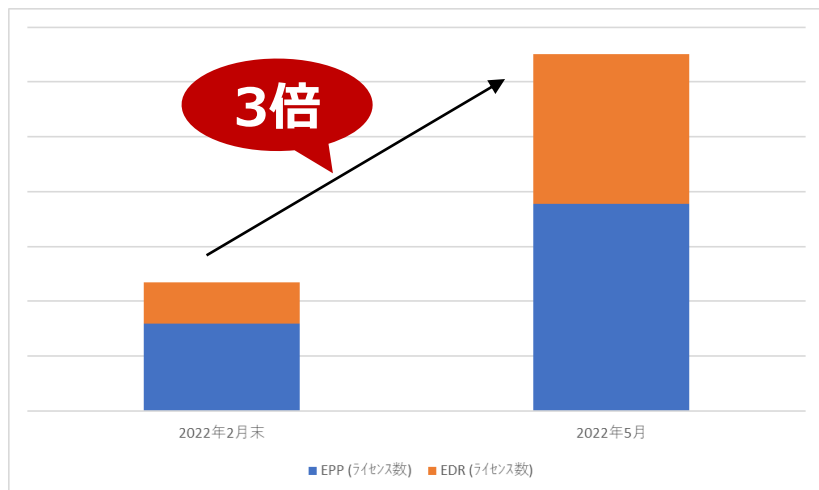
マネージドセキュリティサービス

Vario EDRサービスが好調に推移

新しいサイバー攻撃への対策強化

従来のウィルス対策ソフトでは防御困難なサイバー攻撃の増加により、新しい攻撃に対応した検知ソリューション「EDR」のニーズが高まっている。

当社では、EDR導入の課題となる検知後の判断・対応をマネージドサービスとして提供し、中小規模の企業においても最新のセキュリティ対策と安全なビジネス環境をサポート。



社員アスリート活動報告

当社社員古矢千尋の所属する女子日本代表チームが、IWBFアジアオセアニアチャンピオンシップスで銀メダルを獲得

当社所属の古矢千尋は、5月20日から28日まで、タイ・プーケットにて開催された車いすバスケットボールのIWBFアジアオセアニアチャンピオンシップスに女子日本代表として出場し、チームが銀メダルを獲得。

代表デビュー戦となる今大会において、初得点も記録。

IWBFアジアオセアニアチャンピオンシップスは、2022年11月にアラブ首長国連邦（UAE）で開催される世界車いすバスケットボール選手権大会のアジアオセアニアゾーン予選会となり、2位となった女子日本代表チームは、世界選手権への出場権を獲得。



古矢 千尋

- 所属チーム
COOLS、ELFIN
- 競技実績

2021年 第31回日本選抜車椅子バスケットボール選手権大会 チーム：COOLS 3位

2020年 皇后杯 チーム：ELFIN 5位

2019年 第30回日本選抜車椅子バスケットボール選手権大会 チーム：COOLS 1位・ELFIN 4位

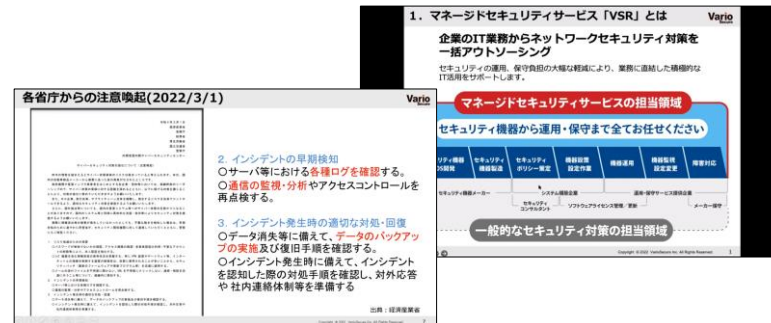
マーケティング活動

ウェビナー（自社開催+共催）、オンラインイベントの出席、セミナー講演

自社ウェビナー、パートナーとの共催ウェビナーの開催や、オンラインイベント、セミナー講演を実施

自社サービス・商品に関するウェビナーの実施と、オンラインイベント、セミナー講演に参加。

また、感染被害の急増したランサムウェアやEmotet（エモテット）対策ウェビナーとして、タイムリーな最新情報を提供。



第1四半期の活動

自社ウェビナー	オンライン・オンデマンド配信/セミナー講演
2022/3/10 【 自社ウェビナー 】 中小企業のネットセキュリティをワンパッケージで提供する新「VCR」をご紹介	2022/4/6~5/11 【 オンライン・オンデマンド配信 】 株式会社ナノオプト・メディア主催 今必要なランサムウェア・Emotet対策とは何か、最新インシデントを解説しながら、今後の検知・隔離・侵入対応策をご提案
2022/3/17 【 共催ウェビナー 】 資本提携・協業による次世代ネットセキュリティの可能性を解説！ AI活用によるVarioマネージドセキュリティサービスの未来をCTO達が語り合う	
2022/3/24 【 自社ウェビナー 】 今必要なランサムウェア対策とは何か、検知・隔離・侵入対応を中心に製造業などの最新事例を解説！ 注目のエンドポイントセキュリティ+バックアップをご提案	2022/5/11 【 セミナー講演 】 RX Japan株式会社主催 第6回AI・人工知能EXPO【春】 HEROZブースにて特別セミナー 資本提携・協業による次世代ネットセキュリティの可能性
2022/4/7 【 自社ウェビナー 】 マネージドセキュリティサービス新シリーズが実現する次世代サービスの解説！ 新機種への機能・サービス追加と外部連携を見据えた拡張性で、さらなる「高速」で「広範囲」まで対応	
2022/5/26 【 自社ウェビナー 】 ランサムウェア・Emotet・ゼロデイ攻撃を見越した最新の対策とは？ ~エンドポイントセキュリティ+バックアップを強化して安心・安全なネットワーク運用をご提案~	

2. 2023年2月期 業績予想

主要ビジネスの強化と旬な隣接事業をSpeed Upし事業拡大を図る。

主力事業の深化

マネージドセキュリティサービスの深化

- サポート力の強化（品質・効率・スピード）
- サービス力の強化



付加価値を付け差別化を図る

- **n シリーズリリース**
 - ニーズ高い機能を追加提供
 - UIの大幅刷新
- **自動化の推進**(VSR-Config)
- **HEROZとの共同サービスのバンドル提供検討**

隣接事業への事業拡大

VSR(インターネットゲートウェイ)だけでなく、隣接領域の事業拡大を図る

- VDaP/EDR(EPP)/V-NSS

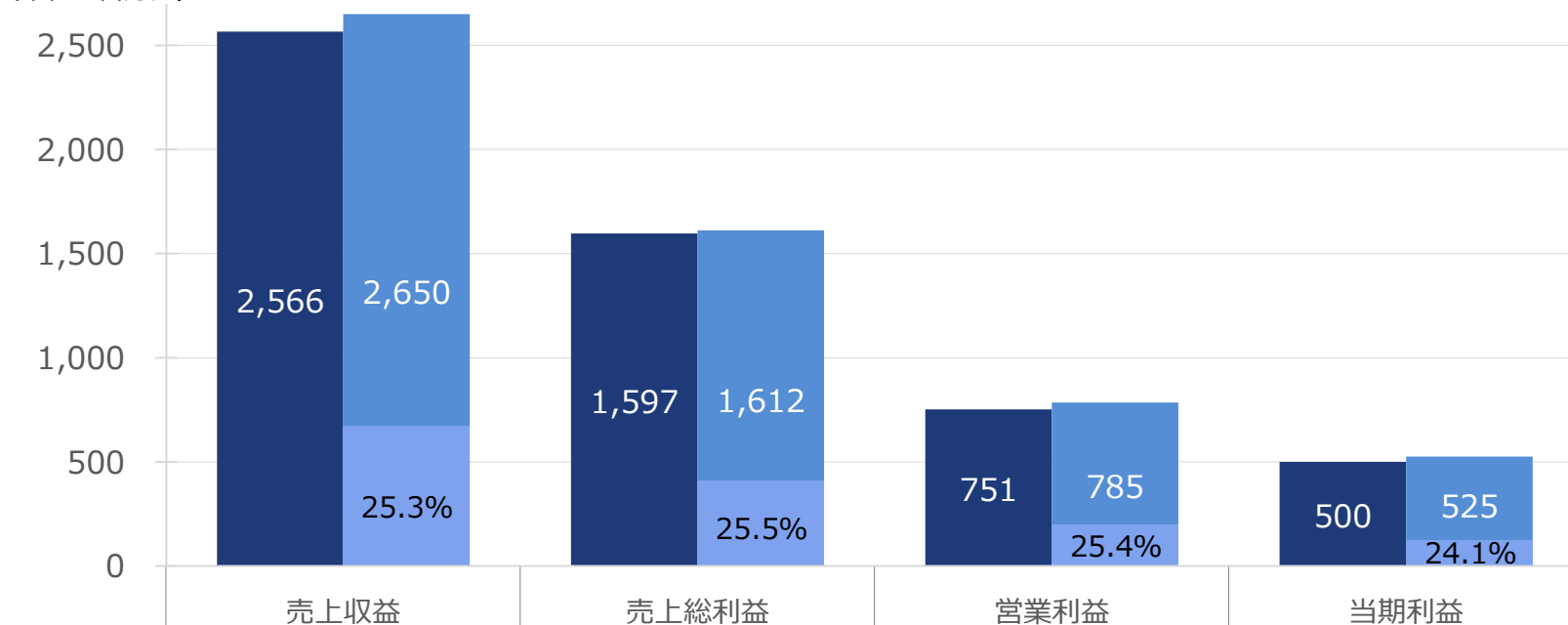


事業拡大のSpeed Up

- **Webinar の活用**
- **特定業界アプローチ**（医療業界）
- **インサイドセールスの活用**
 - EDR : 代理店開拓 事務機器販売
 - VDaP : 医療業界

2023年2月期は、マネージドセキュリティサービスの新シリーズを3月より発売開始し、主力事業の更なる深化を目指す。また、コロナ禍によるリモートワークの増加に伴い、端末側のセキュリティ対策の強化及び万が一の場合に備えてのデータバックアップサービスの隣接事業を拡大し、増収増益を図る。売上収益は、前年比+3.2%の2,650百万円、当期利益は、同比+4.9%の525百万円、当期利益率19.8%を見込んでおり、2023年2月期第1四半期の進捗は概ね順調に推移。

(単位：百万円)



	売上収益	売上総利益	営業利益	当期利益
■ 22年2月期実績	2,566	1,597	751	500
■ 23年2月期予想	2,650	1,612	785	525
■ 23年2月期1Q	670	410	199	126

IFRS(国際会計基準)

3. 中長期の成長戦略

サービスの総合力を強化。専用機器とクラウドを組み合わせ、企業にネットワークサービスを提供。

ユーザーインターフェースの 統合

クロスセル

利便性向上と相互利用の促進を目指し、ユーザーインターフェースを統合

- 統合インターネットセキュリティサービス(VSR)のコントロールパネルを大幅刷新
- 当社提供のサービスを全て統合
- エンドユーザが利用していない当社サービスを確認可能に

基盤ソフトの強化/連携

チャネル拡大

基幹ソフトウェアの性能向上とシステム連携

- 統合インターネットセキュリティサービスの新シリーズ n シリーズのリリースでVario-NSS(企業内ネットワークサービス)専用ソフトウェアを統合
- n シリーズ用の新基幹ソフトウェアでクラウド対応

セキュリティオペレーション センターの 最適化/自動化

コスト削減

SOCのクラウドサポートセンター化を促進

- 災害時に自宅から対応可能に
- 納品自動化ツール(VSR-Config)の導入を開始
- 70%の納品に対応(2022年2月末)
- 納品作業時間を55%削減

企業のインターネット接続の安全/安心から企業内ネットワークインフラ全般までサービスを提供。



ユーザーインターフェースの統合(ダッシュボード)

With AI (integrated with Kishin Monitor)

利用状況の評価/分析/判定 With AI (powered by HEROZ)

ゲートウェイ

VSR, VCR

バックアップ

VDaP

端末保護

EDR

リモートワーク

Vario
Telework
Manager

デバイス探査/デバイス監視/
脆弱性管理

V-NSS
(Vario Network
Security Suite)

境界防御

ランサムウェア対策&端末保護

Work from
Anywhere

企業内ネットワーク保護

SOC(Security Operation Center)の最適化/自動化

VSR-Config

AI Security Company

Vario Secure × HEROZ JAPAN

AIによる予測

未知の脅威への予防

クラウドシステムと
オンプレを一元管理

クラウドシステムの
セキュリティ確保

徹底した自動化による
品質の担保と生産性向上

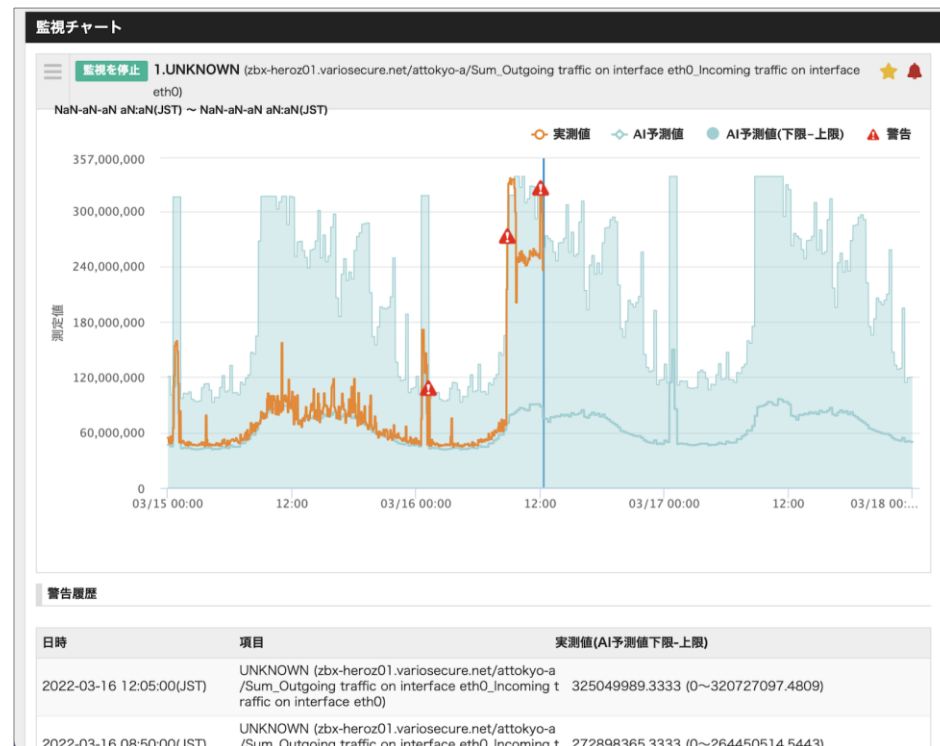


AI技術 HEROZ Kishinを当社専用機に活用

マネージドセキュリティサービス最新シリーズのVSR nシリーズに、HEROZ Kishinを活用したAIトラフィック予測機能（ベータ版）を搭載し5月からリリース。

- WAN側から入ってくるトラフィック
- WAN側へ出ていくトラフィック
- 入出力の合計

異常な通信量の検知や回線などのひっ迫状況をAIにて予測、障害リスク回避に向けた「次のアクション」へ役立つ機能を提供。



5. 会社概要

会社名	バリオセキュア株式会社 (Vario Secure Inc.)
創業	2001年6月21日
資本金	3億3,025万円
従業員数	76名
本社所在地	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-6 住友商事錦町ビル5F
大阪オフィス	〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江1-2-19
福岡営業所	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1-12-17
事業内容	マネージドセキュリティサービス インテグレーションサービス

代表取締役社長	稲見吉彦
取締役営業本部長	梶浦靖史
取締役技術本部長	山森郷司
取締役管理本部長	磯江英子
社外取締役	芝正孝
社外取締役	井口圭一
社外監査役(常勤)	酒井健治
社外監査役	深井英夫
社外監査役	仁科秀隆

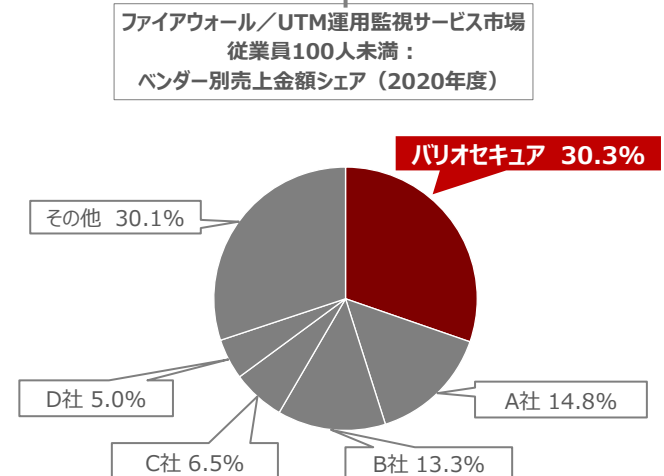
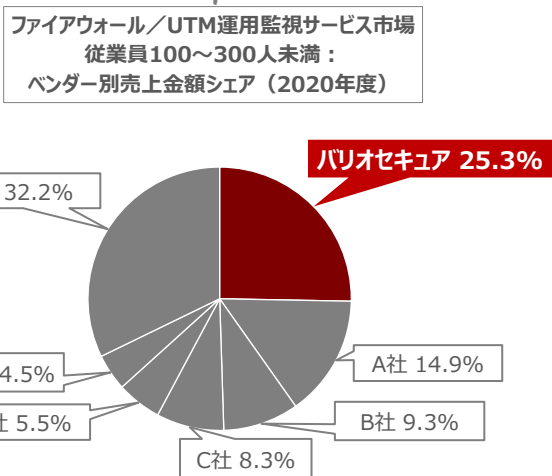
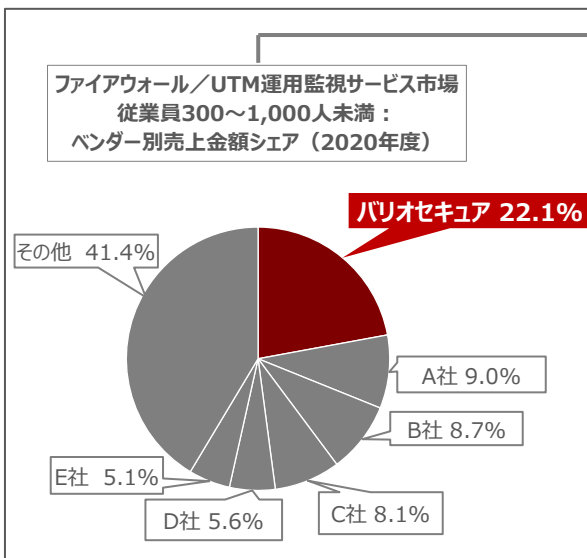
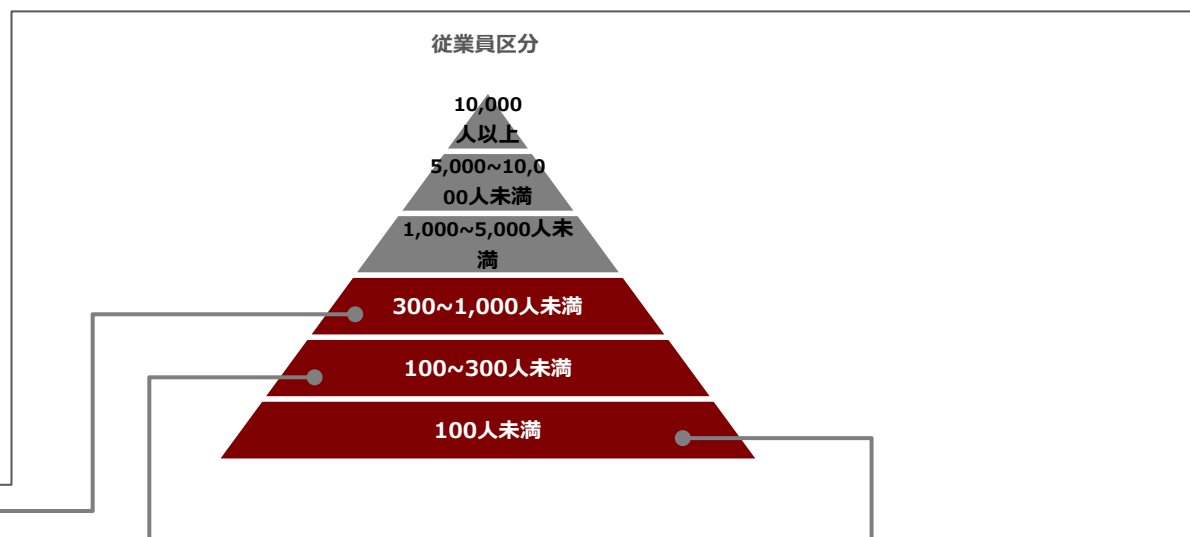
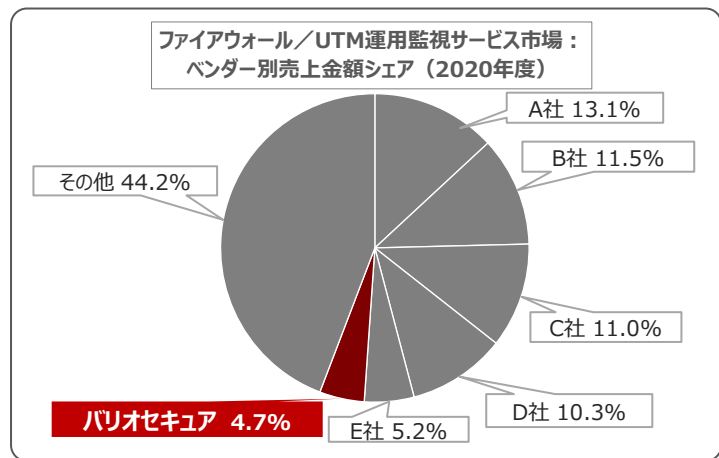
Web <https://www.variosecure.net/>

認証 ITSMS (ISO20000) 、ISMS (ISO27001) 、プライバシーマーク



(2022年5月末時点)

- ファイアウォール/UTM運用監視サービスにおいて、従業員300~1,000人未満、100~300人未満、100人未満では、当社がシェアトップ



セキュリティフレームワーク

当社のサービス

構築

- 資産管理
- 脆弱性管理

ネットワークインテグレーションサービス

特定

Vario Network Security Suite

防御

- アクセス制御
- 不正侵入防御

VSR-Vario Secure Router
(統合型インターネットセキュリティサービス)

検知

- セキュリティイベントの検知、監視

VCR-Vario Communicate Router
(中小企業向け統合セキュリティ機器販売)

対応






Vario-EDRサービス

VSR-Vario Secure Router
(統合型インターネットセキュリティサービス)

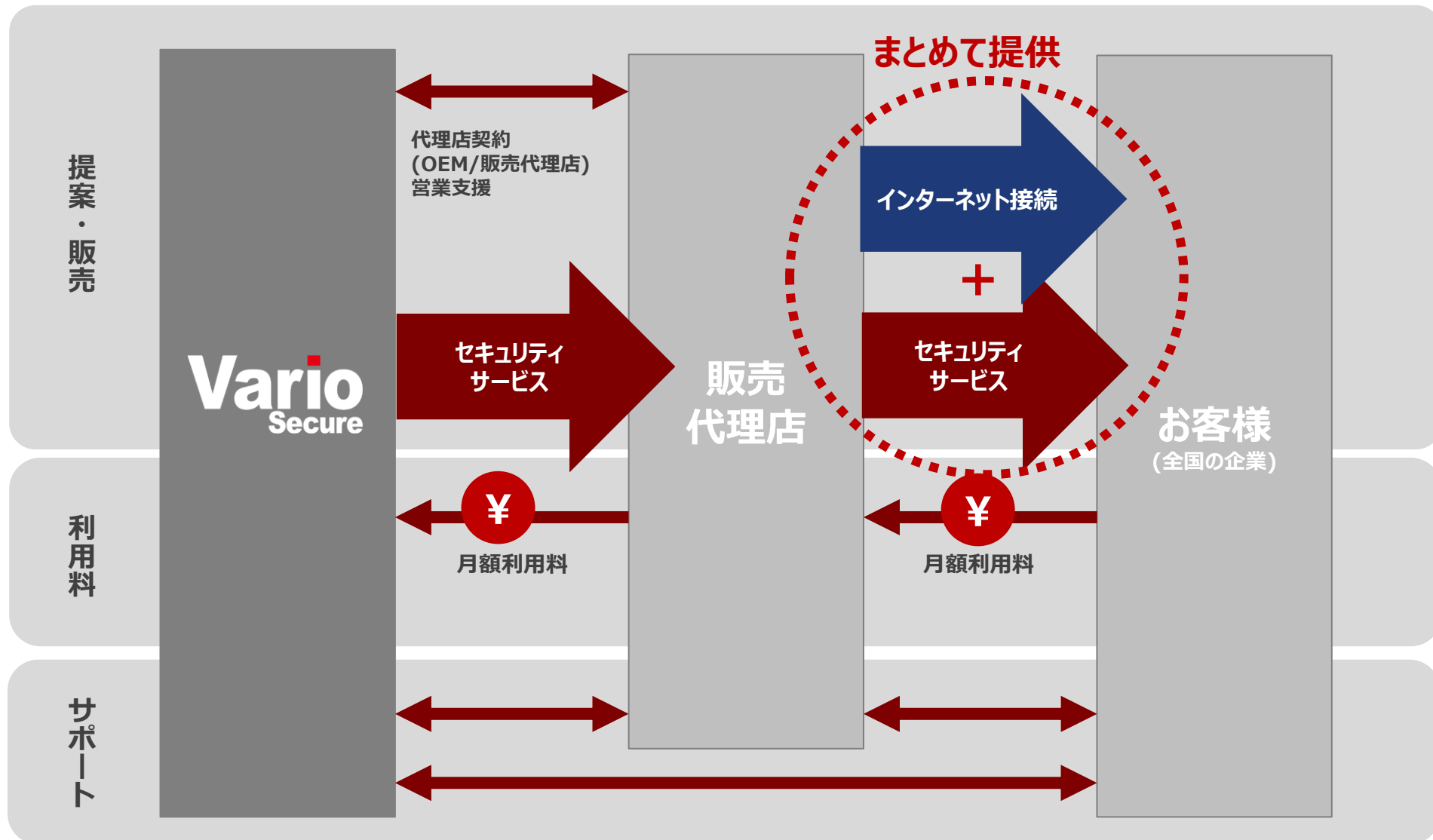
復旧

VDaP-Vario Data Protect
(データバックアップサービス)

企業のインターネット利用を安全・快適にできるサービスを提供。

サービス区分	マネージドセキュリティサービス	インテグレーションサービス
サービス形態	導入支援・導入・運用・保守 24時間/365日、日本全国	機器販売・構築
収益モデル	リカーリング型（月額課金）	一時課金型
サービス内容	<p>① 統合型インターネットセキュリティサービス(マネージド型) インターネットの出入口を守る</p>  <p style="text-align: right;">/ VariOS</p> <p>マネージドセキュリティサービス専用機器 VSR—Vario Secure Router</p>	<p>① 中小企業向け統合セキュリティ機器販売(販売型) 50名以下ならこれ1台で安心</p>  <p>中小企業向け統合セキュリティ機器 VCR—VarioCommunicate Router</p>
	<p>② データバックアップサービス もしもの時のデータ保持</p>  <p>データバックアップサービス専用機器 VDaP—Vario Data Protect</p>	<p>② ネットワークインテグレーションサービス（以下、IS） ・ ネットワーク機器の調達や構築 社内のネットワークの構築 （無線LANネットワーク）</p> 
	<p>③ Vario-NSS(Network Security Suite) 不正端末発見, 脆弱性管理</p>  <p style="text-align: right;">/ VariOS</p>	
	<p>④ Vario-EDRサービス 少ない運用負担で、サイバー攻撃 の発見と対応を支援</p> <p style="text-align: right;">Vario EDR</p>	

- 主にインターネット回線に付帯して提供



通信キャリア、Sier、電力系通信会社様等との間で、OEM契約を締結し、長期に亘るパートナーシップを構築。

マネージドセキュリティサービスのOEMパートナー

全31社（2022年5月末時点）

アルテリア・ネットワークス株式会社

ICTをだれでもすぐに
NJCネットコミュニケーションズ株式会社

※左上から右下への50音順

他多数

5. 參考資料

企業のインターネット接続からテレワークのセキュリティまで様々なニーズに対応。

お客様ニーズ	サービス	メリット
① インターネット接続のセキュリティ/運用をまかせたい	統合型インターネットセキュリティサービス(VSR)	<ul style="list-style-type: none"> 専用機器を設置するだけの簡単導入 社内担当者の運用負担を大幅軽減 手間なく機器を最新状態に維持できる 24時間365日の運用監視、サポートに対応可能 万が一の障害時の手厚いサポート
② 社内の端末情報を負担なく把握したい	Vario-NSS	<ul style="list-style-type: none"> 専用機器を設置するだけの簡単導入 端末へのソフトウェアインストールは不要 端末のIPアドレス情報などを自動取得 脆弱性管理を大がかりなシステム不要で実現 運用負担の少ないシンプル構成
③ テレワーク端末の脆弱性対策と、社員の業務状況を可視化したい	Vario Telework Manager	<ul style="list-style-type: none"> テレワークの端末情報を把握・管理が可能 テレワークのセキュリティレベルを向上 脆弱性を可視化し、更新の未適用を把握 テレワーク社員の業務状況を、通信量、アプリの稼働状況から確認可能
④ 管理や運用負担なく、社内の重要データをバックアップしたい	Vario Data Protect	<ul style="list-style-type: none"> 必要な機器、ソフトウェア、クラウド環境を月額定額でご利用可能 ランサムウェア感染リスクを軽減した仕組みによる安全なバックアップ ローカルのバックアップ用機器+クラウド2拠点への冗長対策済み 管理・運用負担を軽減したマネージド型サービス
⑤ 標的型攻撃やランサムウェアなどのサイバー攻撃被害を未然に防ぎたい	Vario EDRサービス	<ul style="list-style-type: none"> 高度化したウィルス、マルウェア対策として効果的 マネージド型サービスにより、リスクの高い攻撃検知後の対応をサポート 少ない運用負担で、社内だけでなくテレワーク環境の端末保護にも有効
⑥ メールの誤送信防止を強化したい	メールセキュリティサービス	<ul style="list-style-type: none"> メールを一定期間保留し、メール送信のキャンセルに対応 上長の承認機能など、重要メールの送信ミスを防止 様々なルール設定に対応した送信ブロック機能により送信ミスを排除
⑦ 社内のファイル共有を安全かつ便利に実施したい	FileFlex	<ul style="list-style-type: none"> 社内のファイルサーバのファイルを、クラウドやVPNを利用することなく簡単、安全にファイル共有可能 アクセス権限の設定やアクセス履歴確認など、自由度を損なうことなく安全性を確保
⑧ 自社のネットワーク課題を解決するための環境を構築したい	ネットワークインテグレーションサービス	<ul style="list-style-type: none"> 様々な環境構築実績を持つ、ネットワーク、セキュリティを熟知した技術者による対応 お客様ニーズに沿った幅広い機器・サービスの選定が可能 オンプレミスからクラウドまで幅広い領域をカバー

IPAが「情報セキュリティ10大脅威2022（組織編）」を公表。「ランサムウェアによる被害」が昨年に引き続き、首位。「修正プログラムの公開前を狙う攻撃（ゼロデイ攻撃）」が新規にランクイン。

順位	組織	昨年順位
1位	ランサムウェアによる被害	1位
2位	標的型攻撃による機密情報の窃取	2位
3位	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	4位
4位	テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	3位
5位	内部不正による情報漏えい	6位
6位	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	10位
7位	修正プログラムの公開前を狙う攻撃（ゼロデイ攻撃）	NEW
8位	ビジネスメール詐欺による金銭被害	5位
9位	予期せぬIT基盤の障害に伴う業務停止	7位
10位	不注意による情報漏洩の被害	9位

出所：情報セキュリティ10大脅威 2022：IPA 独立行政法人 情報処理推進機構

略語(表記)	内容
VSR	Vario Secure Router 当社マネージドセキュリティサービスで利用している専用機器
V-NSS	Vario Network Security Suite 当社マネージドセキュリティサービスで提供している社内ネットワーク向けサービス。デバイス探査/デバイス監視/脆弱性管理を提供している
VDaP	Vario Data Protection 当社マネージドセキュリティサービスで提供しているハイブリッド型バックアップサービス
VSR-Config	VSR-Config 当社マネージドセキュリティサービスで利用している専用機器の自動設定ツール
EDR	Endpoint Detection and Response エンドユーザが利用するパソコンやサーバー（エンドポイント）における不審な挙動を検知し、迅速な対応を支援するサービス
EPP	Endpoint Protection Platform 従来型のアンチウイルスソフトウェアなど、エンドポイントにインストールするセキュリティプラットフォームの総称
UTM	Unified Threat Management ファイアウォール・アンチウイルス・IPS/IDS・Webフィルタリングなど、複数のセキュリティ機能を統合したアプリケーション製品のこと
OEM	Original Equipment Manufacturing (Manufacturer) 他社ブランドの製品を製造すること（あるいはその企業）を指す
SOC	Security Operation Center 24時間365日体制でネットワークやデバイスを監視し、サイバー攻撃の検出や分析、対応策のアドバイスを行う

インターネットを利用する全ての企業が
安心して快適にビジネスを遂行できるよう、
日本そして世界へ全力でサービスを提供する

Vario
Secure

- 本資料には、当社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記載が含まれています。これらは、当社が作成時点において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記載は、一定の前提および仮定に基づいており、また、当社の経営陣の判断または主観的な予想を含むものであり、国内外の経済状況の変化、市場環境の変化、社会情勢の変化、他社の動向等の様々なリスクおよび不確実性により、将来において不正確であることが判明しまたは将来において実現しないことがあります。したがって、当社の実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。
- 本資料における将来情報に関する記載は、作成時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新を行う義務を負うものではありません。
- 本資料に記載されている当社以外の企業等に関する情報および第三者作成にかかる情報は、公開情報または第三者が提供する情報等から引用したものであり、そのデータ、指標、分析等の正確性、適切性等について、当社は独自の検証を行っておらず、何らその責任を負いません。